

エベネゼル緊急基金



EBENEZER
OPERATION EXODUS

祈りがイスラエルを 帰還させる

「そこで私は、顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた。」 ダニエル書9章3節



神の民の約束の地への帰還を支援するクリスチャンの働き

祈りがイスラエルを 帰還させる

国際



ナイジェル・ウッドリー
Nigel Woodley
ニュージーランド議長

聖書において、イスラエルの誕生から完成に至るまで、歴史的記述として、また将来に向けての預言として書かれています。現代のイスラエルは、聖書の歴史的記述におけるイスラエルと同様に聖書的なものです。相違点は、古代のイスラエルは主に一連の歴史的出来事として記述されているのに対して、現代のイスラエルは預言として書かれているという点でしょう。しかし、その話は同じ場所で、同じ民について書かれています。すなわち、ユダヤ人と、エルサレム、イスラエルの地が彼らの故郷であるということです。

彼らの長い旅において、ユダヤ人は三つの大きなアリヨット（アリヤーの複数形）を体験しました。まず初めにイスラエルが体験したアリヤーは、出エジプトに記されています。神はその力強い御手で、ご自身の契約の民を、モーセを通して奴隷の状態から連れ出し、約束の地へと導かれました。この時300万人がアリヤーし、40年間を要しました。残りの二つのアリヨットとは異なり、このアリヤーでは、一つの大きなイスラエルの民の集団が一度に移住しました。この状況は、ユダヤ機関が当時存在していたなら、これだけの人々を移送することはどれだけ大変だったことでしょう。しかし、神様にとってはこれは全く問題にはなりませんでした！

二度目の大きなアリヤーは、ユダヤ人が70年間バビロンで捕囚だった後の出来事です。

ペルシャのクロス王の宣告（エズラ1：1－4）の後、ユダヤ人は帰還するための特別許可が与えられました。それで、紀元前537年に、5万人がゼルバベルとヨシュアとともに帰還したのです。その中には、紀元前5世紀に彼らの後に続いたエズラやネヘミヤなどもいました。この2度目のアリヤーも偉大なものではありませんでしたが、モーセの時のアリヤーほどの規模ではありませんでした。

今日私たちは、聖書に3度目の大きなアリヤーとして記されているアリヤーを目撃し、支援している者たちです。このアリヤーはそれ以前のすべてのアリヤーにまさるものです。そのようにいくつかの聖書箇所で記されています。「それゆえ、見よ、その日が来る。——主の御告げ。——その日にはもはや、『イスラエルの子らをエジプトの国から上らせた主は生きておられる。』とは言わないで、ただ『イスラエルの子らを北の国や、彼らの散らされたすべての地方から上らせた主は生きておられる。』と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。」「それゆえ、見よ、このような日が来る。——主の御告げ。——その日には、彼らは、『イスラエルの子らをエジプトの国から上らせた主は生きておられる。』とはもう言わないで、『イスラエルの家のすえを北の国や、彼らの散らされたすべての地方から上らせた主は生きておられる。』と言って、自分たちの土地に住むようになる。」（エレミヤ16：14、15、23：7－8）

1947年にヨーロッパからイスラエルへユダヤ人を移送する出エジプトの船



これは、終わりの時代における神の民イスラエルのアリヤーです。ただエジプトやバビロンという一つの国からのアリヤーではなく、全地からのアリヤーなのです。現代のシオニスト運動が1880年代に始まって以来、これまでに少なくとも370万人もの人がアリヤーしています。数においては、すでにエジプトからの大規模な出エジプトを超えているのです。移住者の3人につき2人はヨーロッパからのアリヤーです。これは、預言者が「北の地」から民が来るという預言の成就です。しかし、彼らは地上のすべての国々からさらに帰還を続けています。（エレミヤ29：14、エゼキエル39：25－29）

一度目のアリヤーは、契約の民から契約の神への一致した叫びが上っていった結果で



す。「それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。」(出エジプト記 2 : 23)

すると、主はモーセに次のように答えられます。「見よ。今こそ、イスラエル人の叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプトが彼らをしたがっているそのしいたげを見た。今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」(出エジプト記 3 : 9 - 10) 最初の偉大なアリヤーの陰には、とりなしがあったのです。



二度目の偉大なアリヤーは、とりなしによって起こされました。バビロンに70年捕囚された後、預言者ダニエルは神様の約束に対してこう応答します。「すなわち、その治世の第一年に、私、ダニエルは、預言者エレミヤにあった主のことばによって、エルサレムの荒廃が

終わるまでの年数が七十年であることを、文書によって悟った。そこで私は、顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた。」(ダニエル 9 : 2 - 3) その結果は、クロス王の有名な宣告であり、二度目の偉大なアリヤーでした。

そして現在の3度目の偉大なアリヤーは、次のようにあります。「まことに主はこう仰せられる。「ヤコブのために喜び歌え。国々のかいらのために叫べ。告げ知らせ、賛美して、言え。『主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。その中にはめいしも足なえも、妊婦も産婦も共にいる。彼らは大集団をなして、ここに帰る。」(エレミヤ 31 : 7, 8)

主は、『主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』という祈りに答えて、「見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。」と答えてくださったのです。言い換えるならば、神のイスラエルの救いのための祈りに対する答えは、アリヤーから始まっているということです。祈りととりなしが、アリヤーの前になされなくてはなりません! エレミヤの預言は、30、31章にあります。終わりの時代に生きる異邦人の信者に祈りが求められているのです。(30 : 21 & 30 : 24) 終わりの時代のアリヤーは、祈りを通して起こされ保たれるのです。ですから、アリヤーにとって祈りととりなしがどれほど重要なものか知る必要があるのです!



用語解説

アリヤー(Aliyah):
ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):
1929年 C.ワイズマンによって創設され、エルサレムに本部をもつユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):
イスラエルに帰還するユダヤ人

2018年7月、300人のオリムがイスラエルへ到着

夢がかなう

ウクライナ



タティアナ
Tatiana
ウクライナ地区代表

アレクサンダーは肉体に障害を持っており、94歳の母親と暮らしていました。しかし、神様が彼が先祖の地イスラエルへ帰還する道を開いてくださいました。

イスラエル領事からビザを取得した時に、アレクサンダーの新しい生活が始まりました。彼は多発性硬化症を患っていたので、容易な道ではありませんでした。「私をはじめにこの病気にかかったのは、小学生のころでした。そして高校生の時に、体育の時間に3キロ走らなければならなかったのですが、その時動けなくなりました。「でも、先生方は私がかたがた急がっていると思っていたようです。その後、軍隊に入隊するための健康診断を受けているときに、私の足が動かなくなりました。医者は、私がかたがた入隊を避けようとしているのだと思っていたのです。でも、もし私をはじめにこの病気を治療していたら、このように麻痺はしなかったことでしょう。だから、私にはたくさんの助けが必要なのです。」

約束した日に、私たちはアレクサンダーをドネプロペトロフスクにある領事館に連れて行きました。そこで、彼のイスラエル行きの飛行機の便や、イスラエルでの宿泊場所などに

いてスタッフが長い時間かけて調べました。はりつめた雰囲気の中で、私たちは祈りつつ待っていました。そしてやっと領事と彼の秘書と警備員が、アレクサンダーが忍耐強く待っていた車のところへやってきました。そして、「おめでとう!」と言いながら、領事はパスポートとビザを微笑んでいるアレクサンダーに手渡しました。私たちは、みな神様がこのように祈りに答えてくださったことを喜び、感謝をささげました。

アレクサンダーは長い間アリヤーすることを夢見ていました。1994年と2014年にもアリヤーを試みて成功しませんでした。今回はもう彼をとどめるものはなくなりました。彼は帰還へ向かっています。

「私はハイファの施設のスタッフの皆さんに、宿泊場所を提供してくださったことを本当に感謝しています。また、イスラエルの医者たちが、さらに治療とリハビリを受けるように提案してくれています。」彼はイスラエルへの出発を前にとても喜んでいました。彼は、イスラエルに着いたらすべてがうまくいくことを確信しています。



対立によって移動を強いられる

ウクライナの軍隊状況は非常に困難をもたらしています。それでタティアナとアレクサンダーは、今こそ何かをしなければならぬと心を決めました。タティアナがその報告をします。

「アレクサンダーと私は3人の息子がいます。私は夫と一緒に、果物や野菜を売る仕事をしてきましたが、経済状況が非常に困難になってきました。それで家族の収入の足しにするために、別の仕事も始めました。私は鉄道で、モスクワとクリボイ・ログをつなぐ路線で、2年間働いていたのです。

その後私の弟が、2016年ドンバス地区で殺されました。それで、私たちは自分たちの息子たちを連れて逃げることに決めたのです。息子たちにとって、ウクライナにいても将来はないとわかりました。しかしイスラエルに行けばあります。そういうわけで、この悲しみの全てを捨てて、イスラエルに行き息子たちのための将来を築くことを決めたので

す。私たちはエベネゼルのチームの支援と、彼らが私たちを空港まで送ってくださった支援に感謝しています。本当にありがとうございました。」



ウクライナ



タティアナ
Tatiana
ウクライナ地区代表

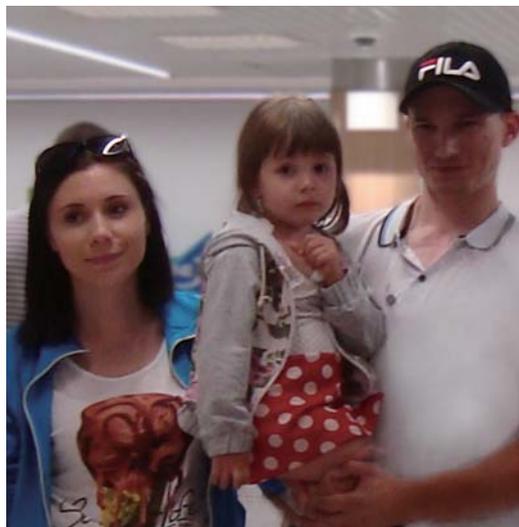
失われたIDカード!

アレクシーとリディアがIDカードをなくした時に、アリヤーの準備が中断されました。エベネゼルは助けることができるでしょうか?

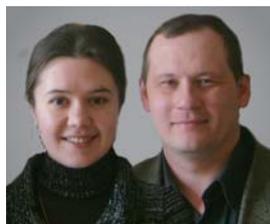
その夫婦は3歳の娘のナタリアと一緒に、アリヤーのための書類の準備をしているところでしたが、全てが中断しました。彼らは、ビザ申請課に書類を提出しようとしていた時に、IDカードが見つからなかったのです。彼らは思いつくあらゆる場所を探しましたが、見つかりませんでした。唯一の解決法は、IDカードを再申請することでしたが、お金がかかるので再申請していませんでした。

アレクシーは絶望の中私たちに連絡をしてくれました。彼らは、IDカードを再発行してもらえれば、移住のスタンプを押したパスポートがすぐ取得できるらしいのです。そういうわけで、アレクシーは、再申請の費用の一部をエベネゼルで支援してほしいと私たちに頼んだのです。私たちは喜んで支援することに

しました。その後、手続きは再開し今彼らは帰還のための準備を進めています。主の働きにおいては、状況は突然変化することができるのです!



モルドバ



パベル&リナ
Pavel & Lina
モルドバリーダー



アリヤーの大路を開く

ロシア



ラリッサ
Larissa
ノボシビルスクチーム

シベリヤの地域において、アリヤーに対して強い霊的な抵抗があることを感じていました。それで、この抵抗を主の権威の元に従わせるために、祈りの行動を起こす必要がありました。クラスノヤルスク地域において、それぞれの町で、地域教会のリーダーたちが要所に集まりました。

そこで、私たちは、イザヤ書 40 章 3 節に従って、アリヤーのための大路が開かれることを宣言しました。また、アリヤーに対する妨げが取り除かれることを宣言しました。祈りや宣言や悔い改めを通して、霊的要塞が打ち砕かれ、1 コリント 10 章 4 節の通りに、霊的な武器が神によって力強いものであることを信じました。また、エベネゼルチームがこの地域中で、ユダヤ人の帰還のための大路が整えられることを宣言しました。

この祈りの行動の後、ある教会のリーダーは、霊的な雰囲気に変化したと感じて次のように言っていました。「私は、なぜユダヤ人たちが約束の地へ帰還するべきかはよくはわかりませんが、私たちは彼らとイスラエルのために祈り始めようと思います。」



極東ロシア



コンスタンチン & アリヨナ
Konstantin & Alyona
ハバロフスクリーダー

運動選手の兄がアリヤーとなる

昨年エベネゼルは、世界のトップ運動選手がアリヤーするのを支援しました。今年は彼の兄弟がイスラエルへ帰還するのを支援しました。

この全ては、2016年に若いウラジオストク出身のアーサーが、モスクワへの領事訪問のための費用の支援をしてほしいと私たちのところへ来たのがきっかけでした。その後もなく、彼は2017年にイスラエルへ帰還しました。彼は実はスポーツ界で有名な人だと後で知りました。

ハバロフスクの領事歓迎会に参加していた時、オリムの名前の中にこの若い運動選手の苗字ができました。私たちはその人に連絡を取ったところ、彼の兄のミカエルであるということがわかりました。彼は妻と三人の子供と両親と一緒に帰還する準備をしていました。

この家族は全員ビザを取得し、アリヤーの最終準備をしました。彼らは有名な親戚とイスラエルで合流し、アシュドテに無事居住が決まりました。私たちは本当に喜びました!



实际的な証人たち

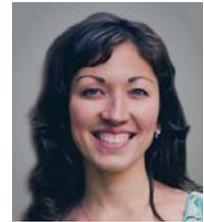
墓地の清掃はエベネゼルチームの平常の活動ではありませんが、これを通してアリヤーの働きについて分かち合う機会が与えられました。

チェルヤンビンスクで、地域の墓地内のユダヤ人地区は雑草が生い茂っていたため、手入れが必要な状態でした。ユダヤ人を愛する地域のクリスチャンたちとともに、私たちはユダヤ人墓地の清掃を始めました。私たちと一緒に作業をしに来られたたくさんの人たちの中に、とても強い一致がありました。たくさんの雑草や茂みを切り倒すことができ、また不注意な人たちが墓地に残っていた山積みのごみも処分しました。

その日の午後私たちがまだ作業をしている間に、あるユダヤ人の女性と娘が通りかかりました。そして、私たちが誰なのか、またなぜこの場所の清掃をしているのかを聞いてきました。そこで、私たちはクリスチャンであり、

ユダヤ人を愛していて、彼らを支援したいと伝えることができました。彼女たちはそれを聞いて感動していました！

ウラル



ナイラ
Nailya
ウラルチーム



空港での奇跡

空港で出発直前にある問題が起こりました。そのために、イスラエルへ帰還しようとしていたウズベキスタンの家族がもう少しで出発できなくなるところだったのです。

彼らはすでに一つの奇跡を体験していたのですが、今もう一つの奇跡を体験しようとしていました！18歳のルスタムは家族と一緒にアリヤーしようとしていました。その最初の奇跡は、彼の家族で彼以外全員がビザを取得した時のことです。彼らから連絡が来て、私たちはルスタムのビザのために祈りました。その後、彼と母親がイスラエル領事館へ行き、彼はビザを受け取ることができたのです。

しかし空港でチェックインの時に、ある書類にスペルミスが見つかったため、家族が呼び止められてしまいました。家族は一体アリヤー便に乗れるだろうかと心配しました。感謝なことに、そこにいたエベネゼルスタッフの一人が、その家族がチェックインを済ませるまでそこにとどまるように主から導かれたと

感じてそこに残りました。彼は20年前にその空港で働いていた友人いたことを思い出しました。すると奇跡的にその友人がそこで働いていたので、この困難を切り抜ける助けをしてくれたのです。神様の備えを本当に感謝し、主をほめたたえます！

ウズベキスタン



ザーナ
Zhanna
ウズベキスタンリーダー



ブネイ・メナシェは喜びをもって 帰還します!

インド



ディーパ・トーマス
Deepa Thomas
インドコーディネーター

230人のブネイ・メナシェのユダヤ人が6月にインドの首都ニューデリーから5つのグループに分かれてアリヤーしました。私は4番目のグループに同行しましたが、チェックイン、移住、身元確認などの手続きは、インドの山奥の村から出てきた、この失われた部族にとって簡単なことではありませんでした。

私たちはエチオピア経由でイスラエルへ行きました。そこで、テルアビブ空港行きの出発ゲートが開くのを待っていると、黒いコートと帽子ともみあげのある正統派のユダヤ人がブネイメナシェの人のところへ歩いて行き、一緒に夜の祈りをする輪に加わるように誘っていました。その時、彼らの目は輝き彼らは急いで正統派ユダヤ人のところに加わり、こうして失われた部族はともに輪になりました。地元のイスラエル人と失われた部族はこうしてイスラエルの方角を向いて、夜の祈りをささげました。

また、車椅子に乗った年おいたラビがそこにいました。するとブネイメナシェの人々は彼の周りに群がり、自分たちの子供を祝福してほしいとお願いしました。すると、彼は喜んで祝福の祈りをしました。私の目からは喜びと驚きの涙があふれました。神様がインドから

のへりくだったユダヤ人たちにこのように豊かな愛と受け入れをあらわしてくださっているのを見たからです。彼らがイスラエルに到着する前にすでに、彼らはユダヤ人たちに自分たちの仲間として受け入れられていると感じることができたのです。

その日の夜遅くに、私たちはテルアビブのベン・グリオン空港に着きました。年配のブネイメナシェの婦人が私の後ろで窓の近くに座っているのが見えました。彼女は静かに泣いていました。涙が頬を伝っていました。2700年もの間イスラエルから引き離された失われた部族の女性がここにいました。彼女と彼女の祖先が今まで見たことはないけれども、何世紀もの間待ち望んだ地に到着したのです。

ブネイメナシェは自分がユダヤ人であることを証明する書類はもっていません。彼らは見た目も違います。彼らが持っているのは、ただシオンを待ち望む情熱とあこがれだけなのです!しかし、自分が見たこともない地をこのように情熱的に求めて泣くことを一体どのように説明できるでしょうか?その地が彼らの霊に深く刻み込まれているので、分かつことのできないつなかりを彼らはもっているからではないでしょうか?



地の果てにたどり着く

神様がご自身の選びの民を守り導いてくださることはすばらしいことです!みことばで神様はこう宣言されています。「わたしは、あなたを地の果てから連れ出し、地のはるかな所からあなたを呼び出して言った。「あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、捨てなかった。」 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」(イザヤ書 41:9-10) アルゼンチンのエベネゼルチームは、自分たちの目前で、このことが成就するのを見えています!

主が私たちを主の声、手、足としてくださり、



ユダヤ人たちを見つけて、彼らが愛されていること、また神様が彼らのことを決して忘れない、ということ伝えるために用いてくださっていることを、私たちは本当に喜んでいきます。神様の聖なる召し、アリヤーを通して神様に従順に仕える中で、主の御名の栄光をほめたたえます!

最近私たちは、ブエノスアイレスから400キロほど離れたところにある、エントレ・リオス州へ行き、そこでユダヤ人たちに人道的支援を提供し、また神様が彼らの故郷、イスラエルへの帰還を願っていることを伝えることができるように、祈りました。私たちが訪れたいくつかの場所で、その地域のユダヤ人居住区のリーダーが困窮しているユダヤ人家族の居場所を教えてくれたため、そこでアリヤーのメッセージも伝えることができました。しかし他の場所では、この尊い人々を探し出すために、かなりたくさんの人たちに聞いて回らなければなりません。私たちが行く場所どこにおいても、人々は親切と感謝をもって迎えてくださったことを、主に感謝します。

私たちがさらに多くの家族にアリヤーについて分かち合うことができるように、アルゼンチンのボランティアのためにお祈りくださるようお願いいたします。また、このメッセージを聞くユダヤ人の家族が、イスラエルに彼らを召しているのは神様であるということを理解できるよう、お祈りください。



アルゼンチン



ダニエラ・カスティージョ
Daniela Castillo
エベネゼル ラテンアメリカ

写真: アンナ(右) メキシコからのボランティア、ユダヤ人居住区の女性とともに

ダニエラ(左)とアンナ(右)と、ユダヤ人居住区リーダー夫妻と、牧師ラウルとアナリア



私たちとともに喜んでください!

USA



デボラ・ミノッティ
Debra Minotti
出エジプトUSA代表

「わたしは彼らを幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」エレミヤ32:41

出エジプト作戦USAは、今年の夏、一日のうちに149人のユダヤ人の方々のアリヤーを支援することができました!

バッファローにあるエベネゼルUSAの本部では、毎日、神様のユダヤ人の帰還のためのご計画、みこころを求めて祈っています。今年は、アメリカからほぼ700人のユダヤ人の帰還を支援してきました。

バッファローナイアガラ国際空港で、午前4時に祝福の出来事が起こりました。ボランティアとスタッフのチームが7人の家族をそこに送り、荷物の積み下ろしを手伝いました。イエスロエルは私たちに感謝をしつくせないようでした。

彼のかわいい娘の小さなエステルはたくさんハグをしてくれました。バッファローから、彼らはニューヨークを経由し、私たちが経済的支援をした149のユダヤ人家族と合流し、そして聖書の預言の成就として、何百人ものユダヤ人とともにイスラエルへついに帰還をとげました。

私たちは、自分の住む場所からのユダヤ人の帰還の支援ができたことを本当に喜んでいます。「よい隣人の町」バッファローは、神様の栄光のためにより働きをしています!

飛行機に乗っていたのは、もう一人エラッドという方です。「私は子供のころからいつもアリヤーを夢見てきました。私の姉が2か月の時に、私の家族は、よりよい生活を期待して、イスラエルからアメリカに移住してきたのです。

私たちはここで成長し、よい生活を送り、生涯の友も得ました。でも、いつも何かが足りないという思いをもっていたのです。私たちの故郷に対する強い絆を感じていましたが、もうそれを無視できなくなったのです。

大学を卒業してから、私は家族の中で開拓者となって最初に動き出すことを決めたのです。それは簡単な道ではありませんでした。しかし、私は生まれ持って与えられた使命を果たしたいと思います。だから、私は故郷へ帰る準備ができています。」

右: イエスロエルと家族、バッファロー支部にて

写真左: 家族のために故郷へ帰る開拓者となるエラッド



国々にたいする呼びかけ

「神である主はこう仰せられる。「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を国々の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちをふところに抱いて来、あなたの娘たちは肩に負われて来る。」イザヤ書 49:22

今年の夏に、私はエベネゼルチームとともに、先住民のための大会に参加しました。ある牧師夫妻が私を招待してくださいました。この大会はノルウェーの最北部で行われました。神様は彼らに、先住民のためのクリスチャンの集会センターを建てるように語られました。それと同時に、神様はユダヤ人、イスラエル、アリヤーに対する愛と理解を与えてくださったのです。

参加者の中には、スカンジナビヤやロシアから来たサミ族の人々、グリーンランドからはイヌイット族の人々、ロシアツンドラ地区の先住民を代表してアメリカ人の牧師も来ていました。エベネゼルチームは、分かち合う機会が与えられ、アリヤーのためのとりなしの祈りも導くことができました。

先住民は、世界の人口の約5パーセントをしめています。その多くの人々は圧迫の中にあるため、その中に住むクリスチャンは神の召しを見出すのが難しくなっています。彼らは、自分の民族伝統の楽器を使って神を礼拝する時に、反対や偏見をもたれることもあります。「国々の声」という団体の代表者は、先住民のところに旅して、伝統的な失われた楽器

を探すと、70以上の楽器があることがわかったと言っていました。

私の思いは黙示録に向けられました。そこでは、あらゆる民族、言語、国々の大群衆が、神を賛美するのです。また、神が国々にアリヤーを助けるよう召しておられる、イザヤ書 49章 22節も思い起こしました。先住民もまたユダヤ人が再び集められることの一旦を担うように召されているのです。これは国々にとっての特権であり、使命であり、また祝福の元なのです。

祈りましょう

- ✓ ・先住民に対する私たちの罪、不義を告白し、主からのゆるしを受けましょう。
- ✓ ・主が先住民にもっておられるよいご計画、また彼らを個人的、またグループとして整えていかれる多様なご計画に感謝しましょう。
- ✓ ・先住民の中に住んでいるユダヤ人のために祈りましょう。そして、主が彼らの帰還を導いてくださるよう祈りましょう。

祈り



エステル・ウェフス
Esther Wehus
ノルウェー祈りのリーダー

Engage:Israel

EXPLORERS
EXPERIENCE

Explore the Land of miracles, see the ancient stories of the Scriptures come to life, walk where Jesus walked and go deeper in your faith as we enjoy times of teaching, worship and prayer. Make friends for life as you go on the journey of a lifetime – The Explorers Experience.

DATES

PRICE

Explorers: 11-22 July 2019 \$1690 (full board, excl. flights)
Warriors: 22-29 July 2019 \$1190 (half board, excl. flights)
Pioneers: 22-29 July 2019 \$990 (half board, excl. flights)

1 TRIP 3 EXPERIENCES

WARRIORS
EXPERIENCE

Have you been to Israel and are looking to go deeper? Do you want to grow in worship and intercession? Join us on the Warrior Experience and plunge deeper in your understanding with expert teaching on prayer, intercession and worship in the end time army of God.

AGES 18-35+

PIONEERS
EXPERIENCE

This hands on experience will join you to the Land of Israel like never before. Literally put your hands on the Land as we use our hands to plant trees, paint and build houses, spending an exciting time with locals who are really seeing Israel grow from the roots up. Get a close up view of Biblical prophecy coming to life on this ground-breaking experience!

Early bird
discount
before May 1st

More info in Social Media:

EbenezerInt: & operation-exodus.org/young-adults

Helping His People Home | 11



お帰りなさい!

イスラエル



ナタリー・チャロン
Nathalie Charron
イスラエル支部

7月23日に、特別チャーター便が300人の新しい移住者を乗せて、テルアビブのベン・グリオン空港に到着しました。何人かのエンゲージツアラーリーダーとエベネゼルのエルサレム支部のスタッフは、ユダヤ機関が主催の特別歓迎パーティに参加することができました。

飲み物などが用意された大きなホールでは、興奮した雰囲気がその場を満たしていました。新しく到着したばかりの移民を歓迎しに来た人たちの中には、10代のイスラエル人たちや、様々なユダヤ人やクリスチャンの団体の人たち、また最近エチオピアから移住したばかりの人たちもいました。

焼けつくような太陽の下で私たちが立っていると、飛行機はこの尊い人々を乗せて到着しました。フランスからの200人のオリム、ロシアから70人、そして南米から30人。歓迎の歓声と、イスラエル国旗が揺れる中、彼らはゆっくりと降り立ちました。多くの子供連れの家族の中には、興奮している人も、また長旅で疲れている人もいました。

ある女性は手を口に当てて、地面にかがみキスをしていました。再会を喜ぶ家族や友達、涙、また抱きしめあう姿がありました。

ホールでは、オリム達はイスラエルの役人やクリスチャン団体のリーダーたちからのあいさつを受けていました。イスラエルのラビの主幹者であるラビ・ラウは、新来者に、預言者エレミヤが彼らを再び集めることについて語ったことを伝えました。「神様に感謝します。あなたがたはここに来ました。…イスラエルにあるすべての良いものを見てください。…みなさんはチャレンジを受けるでしょう。…しかし皆さんは帰還したのです!私たちは皆さんを愛しています!」

その後、音楽が始まると、イスラエル人と新しい移住者たちはホールで一緒に踊り始めました。「この歓迎会は本当に励まされます。ありがとうございます!」とある若いフランス人の女性が言いました。「私は長い間、アリヤーすることについて考えていました。私は、家族で初めてアリヤーした者です。」

空港を出る前に、私たちは最初の夜を祖先の地でイスラエル人として過ごす彼らのためにお祈りしました。彼らの中にはハイファ、ネタニヤ、エルサレムや他の場所に行く人たちもいました。私たちは、神様が彼らを見守り、みことばの約束通りに彼らをこの土地に植えてくださるようにお祈りしました。

自分の目の前で、神様の約束が成就するのを見ることができ、「わしの翼」によって約束の地に到着し新しい生活を始める彼らを歓迎することができることはなんとという喜びでしょうか。



Operation Exodus

A ministry of Ebenezer Emergency Fund International

Ebenezer Operation Exodus International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org

Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster
NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org



**EBENEZER
OPERATION EXODUS**



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱37号

Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)

office@ebenezerjapan.org

http://ebenezerjapan.org/

郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金

(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き of 名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。